

小樽市立潮見台小学校 学力向上改善プラン

1 実施期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

2 児童の実態

① 全国学力・学習状況調査結果（教科）

- ・国語においては、知識・技能については高い数値と言えるが、反面、思考・判断・表現については課題が見える。特に「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」設問では正答率が平均を大きく下回り大きな課題と言える。
- ・算数においては、変化と関係領域の正答率が低く課題と見られる。特に「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。」設問での正答率が低く、既習事項を活用し問題解決に向かうことに課題があると考えられる。
- ・理科を含む全教科において、記述式問題の正答率が低く、無回答率も高かったことから、日常的に伝え合う学習活動を取り入れた授業改善が必要である。

② 標準学力調査（教科）

- ・どの学年においても、「書くこと」の領域が伸び悩んでいる状態にある。指定された長さや条件に合わせて書く力を高めるために、国語科だけではなく、各教科で系統性を持って取り組んでいく必要がある。

③児童アンケートより（学校評価）

- ・国語が「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた児童は80%、算数が「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童が79%だった。両教科において、前期から後期にかけて肯定的回答が増えている。
- ・家庭学習の時間が（学年×10分+10分）取り組んでいると答えた児童は78%となり、経年で見ると微増している。

④保護者アンケートより（学校評価）

- ・朝ご飯を食べるという子の割合は、経年で見ると減少してきている。
- ・ゲーム機やスマホ、PCの動画を見る時間が「2時間以上を越える」との回答が非常に高い割合となっている。同様にゲームをする平均時間が「2時間以上を越える」との回答も多く、生活習慣の見直しについて啓発していく必要がある。

3 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語>

学年	定着目標
1年	・国語を好きと回答する児童82% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
2年	・国語を好きと回答する児童82% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
3年	・国語を好きと回答する児童82% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
4年	・国語を好きと回答する児童82%

	・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
5年	・国語を好きと回答する児童82% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
6年	・国語を好きと回答する児童82% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%

<算数>

学年	定着目標
1年	・算数を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表) 80%
2年	・算数を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表) 80%
3年	・算数を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表) 80%
4年	・算数を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表) 80%
5年	・算数を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表) 80%
6年	・算数を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(知・技・思・判・表) 80%

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・毎日音読し音読カードを提出90% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 90% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
2年	・毎日音読し音読カードを提出90% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 80% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
3年	・毎日音読し音読カードを提出90% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 80% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
4年	・毎日音読し音読カードを提出80% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 80% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
5年	・毎日音読し音読カードを提出80% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 80% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
6年	・毎日音読し音読カードを提出80% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 80% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%

4 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①基礎基本の確実な定着を図り、児童に「わかる」「できる」という自己肯定感を味わわせるため、授業改善を行う。
- ②漢字、計算に加え、文章題などの学習を進めるため、朝、放課後の補充学習や宿題の取組を進める。
- ③授業に臨む「学習のやくそく」の定着を目指した指導を発達段階に応じて進める。
- ④「書く力」を付けるために、条件や設定に応じて表現する場を各教科や行事等において位置づける。
- ⑤算数においてはTT指導・習熟度別学習を取り入れ、基礎基本の定着を図るとともに、発展的に学ぶ楽しさを実感させていく。
- ⑥外部講師との連携を深め、全教科を通じて自ら学ぶ児童の育成を目指していく。

(2) 確かな学力を育む授業改善の取組

- ①すべての授業で子どもたち同士の学び合いを取り入れた授業を構築する。
- ②学び方や解決方法、表現方法を選択したり自己決定したりする場を授業に取り入れることで個別最適な学びの実現を目指す。
- ③指導方法工夫改善に伴うT・Tや習熟度別指導等を研修し、担当教諭との打ち合わせを日常化する。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①音読カードを活用した音読を継続する。
- ②放課後学習を積極的に活用し、子どもたちに学ぶ習慣を身に付けさせる。
- ③家庭学習を定着させるための家庭への啓発、宿題の内容や出し方の工夫を進める。
- ④「早寝・早起き・朝ご飯」の取組やテレビ等の視聴時間に関する家庭への啓発を随時行い、生活リズムチェックシートの活用を推進する。

(4) その他

- ①ゲストティーチャーによる授業など、生き生きとした学習が展開されるよう指導計画に位置づけ、実践する。
- ②地域の環境を生かした授業を積極的に取り入れる。

5 実施計画

年月日	計 画 内 容
R5年4月	○R5全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査の自己採点 ○標準学力調査(第3.4.5)学年の実施
6月	○標準学力調査結果分析
7月	○学級経営計画の作成・交流 ○児童アンケートの実施 ○定着確認テスト、チャレンジテストの実施
8月	○経営反省と2学期の重点課題の交流 ○R5全国学力・学習状況調査結果分析
9月	○改善プランの修正 ○保護者への調査結果の説明
10月	○学力向上改善プランの評価・改善 ※全学級による研究授業を通年実施
11月	○児童アンケート、保護者アンケート、自己評価の実施
12月	○チャレンジテストの実施
R5年1月	○経営反省の実施
2月	○チャレンジテストの実施
3月	○学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ○経営反省の実施 ○新学力向上改善プランの作成

6 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①自己評価、児童アンケート等
- ②標準学力検査、チャレンジテスト、定着確認テスト等
- ③自己評価、学級経営交流・児童交流等

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ①全学級の授業公開と外部からの助言、評価
- ②授業交流、研修による交流等
- ③自己評価、児童アンケート、研修による交流等

(3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

- ①音読カード
- ②保護者アンケート、児童アンケート等
- ③PTA役員会、学校評議員会等での意見交換等

(4) その他

- ①自己評価、教育課程委員会での意見交換